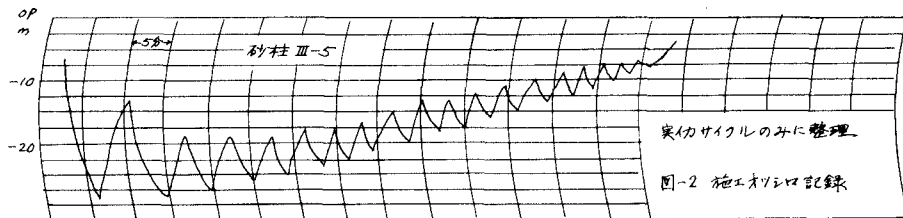


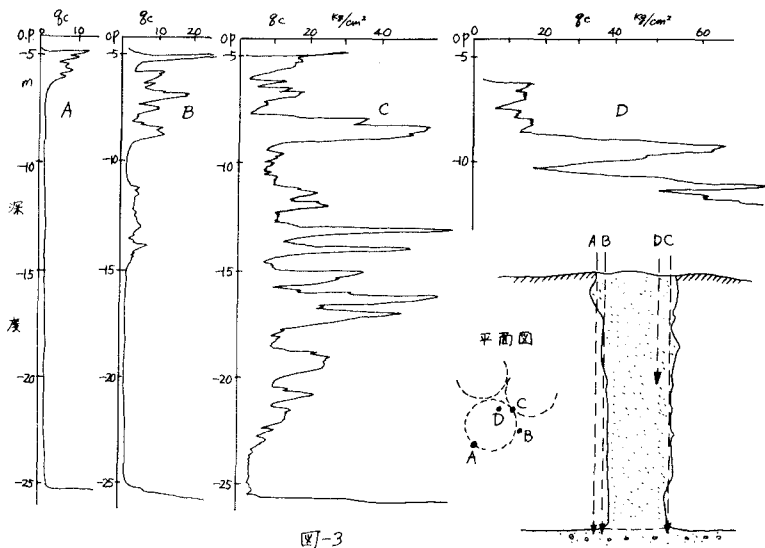


#### 4. 実験結果

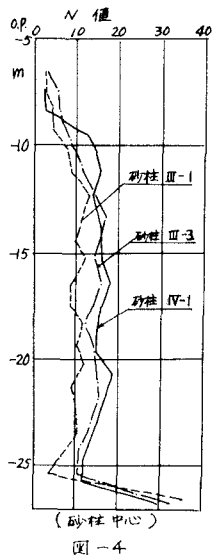
##### 4.1 圧入置換施工記録の一例 (図-2)



##### 4.2 断面推定調査用自動コーンテストの結果例 (図-3)



##### 4.3 置換砂柱の密度

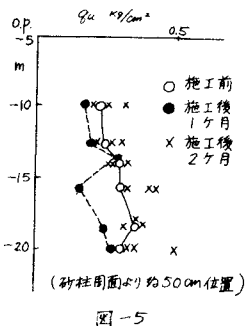


#### 5. むすび

- (1) 本施工方式を使用することによりケーシング容積4倍程度(直径2m)の均一圧入置換及び隣接圧入置換が十分可能で、置換密度は $N=10 \sim 15$ が期待できる。砂利混用すると当然 $N$ 値は大きく、とくに表層において顕著であった。(図-4)
- (2) 置換砂柱周辺の粘土強度の低下は2ヶ月後原地盤またはそれ以上に回復が認められた。(図-5.6)
- (3) 当実験の規模では、海底面の顕著なふくれ上り、変位は認められなかった。
- (4) 砂の大量供給設備を追加するのみで十分実用に供しうる。

なお、本実験は、昭和41年度運輸省科学技術試験研究として助成を受け実施(5.4.1.7.5~5.4.1.9.6)されたものである。終りに御指導御協力を得た運輸省港湾局機材課、才三港建神戸調査設計事務所、同尾崎港工事事務所その他関係各位に心から謝意を表する次第である。

##### 4.4 周辺粘土強度の変化



##### 4.5 先行荷重の変化

